

漁獲を左右する局地的な沿岸域情報の「見える化」

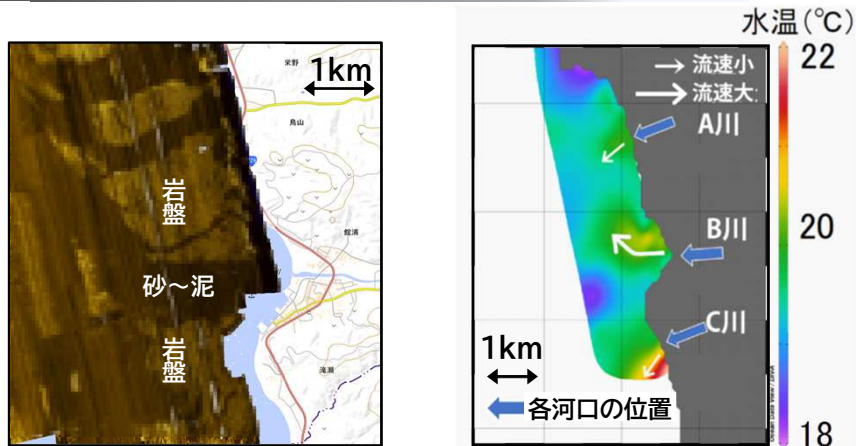
～栄養塩の分布や海底地形・底質の可視化技術の開発～

背景

- ・「日本海漁業振興基本方針（北海道2018）」では、経営安定等のため今後は養殖業の展開が必要とされています。
- ・海面養殖業を営むためには、海底地形や底質分布、藻場やプランクトンに影響する栄養塩などの基礎的な情報が必要です。
- ・海域利用について総合的に検討する情報ツールとして、これらの沿岸域情報を可視化することが求められています。

成果

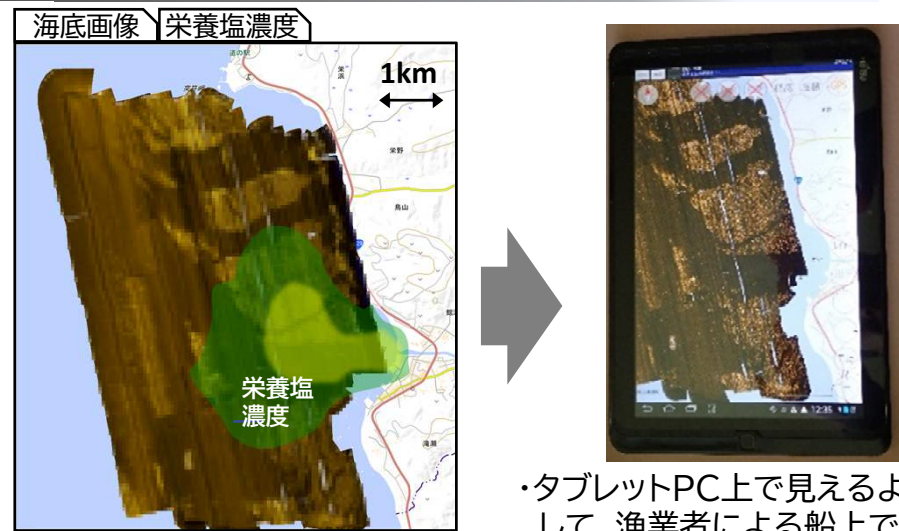
1 沿岸域の海底地形・底質と海域特性を把握



・音響調査を活用し、沿岸域の海底地形、底質分布を高解像度で特定

・海水と河川水について、水温、流量・流速、栄養塩濃度の違いから、海域での栄養塩濃度分布を推定

2 得られた情報を地図上で分かりやすく「見える化」



・情報をレイヤー化して表示

・タブレットPC上で見えるようにして、漁業者による船上での使用試験を実施

期待される効果

○貧栄養な日本海漁場環境に適応した養殖・沿岸漁業を進めるための情報ツールとして、漁協や漁業者に活用される見込みです。

得られた成果は関係団体を通じて、ICT水産業の促進につながります。

協力機関：中央水産試験場、栽培水産試験場、北海道ぎょれん、乙部町、八雲町、北海道檜山振興局水産課、檜山地区水産技術普及指導所、ひやま漁業協同組合